

I 研究概要

1 研究主題

心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“とすっ子”の育成

2 研究主題設定の理由

鳥栖小学校、鳥栖北小学校、鳥栖中学校の3校が共通の児童生徒像をもち、小学校から中学校までの発達段階を考慮し、義務教育9年間を見通して研究実践に取り組むことは、鳥栖中学校区が抱える教育に関する諸問題の解決と改善を図る上で意義があると考えます。

そこで、鳥栖中学校区では、児童生徒の知・徳・体の調和の取れた成長を願い、研究主題を「心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“とすっ子”の育成」とし、研究に取り組んでいくこととした。

「心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“とすっ子”」の具体的な姿を以下のようにとらえ、9年間の義務教育の中でその姿の実現のために、3校で連携しながら各学校で自己有用感の向上・授業改善・児童生徒間の仲間意識の向上などに取り組んでいく。

	児童生徒像	具体的な児童生徒の姿
「心豊かな“とすっ子”」	豊かな心をもつ児童生徒	・自分を大切にする。 ・気配りができる。 ・感謝と奉仕の精神をもつ。
「たくましい“とすっ子”」	困難に立ち向かう児童生徒	・進んで挑戦する。 ・簡単にあきらめない心をもつ。 ・友達と協力できる。
「自ら学ぶ“とすっ子”」	意欲的に学習する児童生徒	・授業を大切にする。 ・共に学ぶ姿勢をもつ。 ・課題に意欲的に取り組む。

施設分離型となる鳥栖中学校区では、3校が共通理解を図りながら小中一貫教育を進めるには、難しい環境である。そこで、小中一貫教育を推進するために、4部会（学びづくり部、仲間づくり部、生活づくり部、特別支援教育部）を組織し、各部がテーマを設定して、研究実践に取り組むこととした。

これによって、近々の教育課題である中1ギャップ、学力の向上、生徒指導上の問題、特別支援教育の連携等の問題の改善を図ることができると考える。

3 各部会での取組内容

(1) 学びづくり部

ア 小中学校での共通のテーマである「児童生徒の学習課題に対する主体性を育み、話し合う活動を通して学びを深める」ことの研究・実践を通して、学力の向上と授業の改善につなげる。

イ 鳥栖市の教育の柱である教科「日本語」の学習を通して、「豊かな日本語を身に付け、鳥栖市を愛し、次世代を担う鳥栖の子どもの育成」を図る。

(2) 生活づくり部

ア 生活習慣や学習習慣の確立などの学習の基盤づくりに、小中学校が連携して取り組むことで、“自ら学ぶ基礎”を育成する。

(3) 仲間づくり部

ア 児童生徒間の交流を図り、構成的エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、「自他のよさを認め、伝え合うことのできる仲間づくり」を進める。

(4) 特別支援教育部

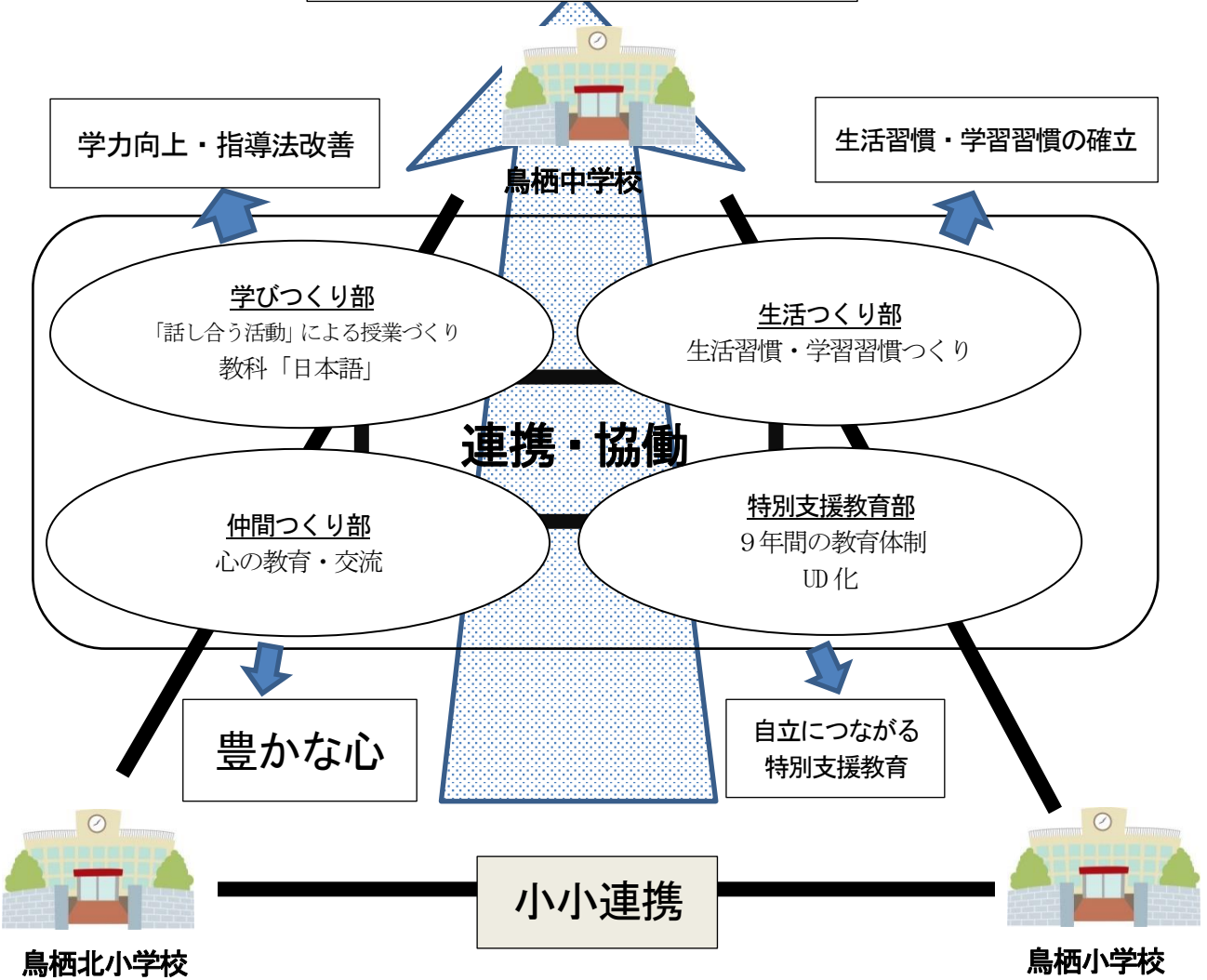
ア 児童生徒の困り感や障害に寄り添い、学習環境のユニバーサルデザイン化（以下UD化と表記）や、手厚く効果的な9年間の支援体制の構築と特別支援教育を通して、児童生徒の自立を目指す。

4 鳥栖中学校区の小中一貫教育の全体構想図

心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“とすっ子”の育成

- 9年間を貫く4つの教育方針
- 1 深い学びにつながる「話し合う活動」を取り入れた授業づくり (学びづくり部)
 - 2 “自ら学ぶ”基礎となる生活習慣・学習習慣づくり (生活づくり部)
 - 3 自他のよさを認め、伝え合う仲間づくり (仲間づくり部)
 - 4 義務教育期に障害のある児童生徒の自立を目指した特別支援教育 (特別支援教育部)

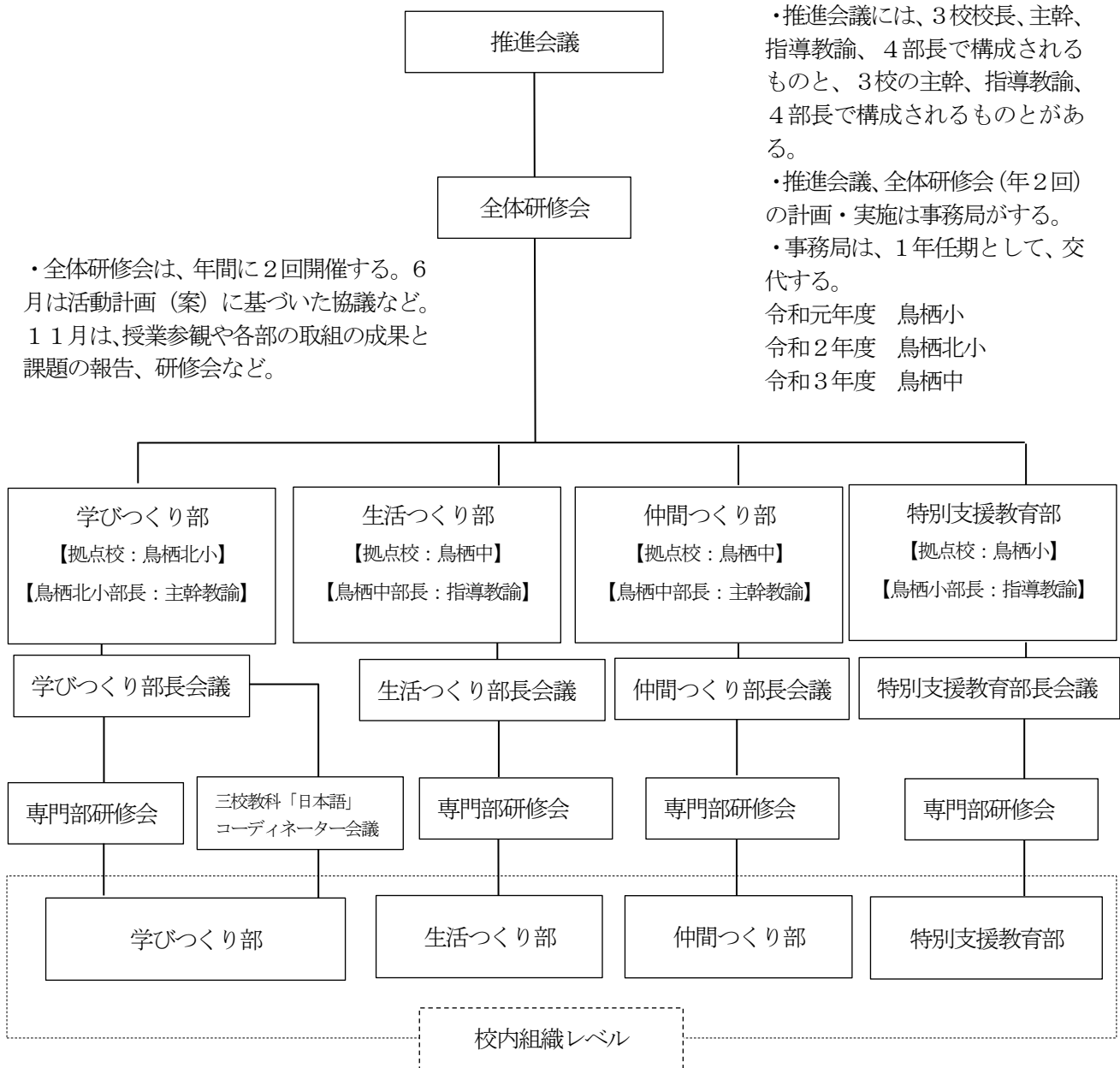
鳥栖中学校区小中一貫教育



5 研究組織

施設分離型の小中一貫教育であるために、3校の職員が定期的が集まるのが困難である。また、多岐に渡る教育課題に対して迅速に対応することも難しい。そこで、計画的かつ組織的に研究に取り組むために、4部会制を組織した。また、3校に各部の拠点校を指定し、研究を推進していく。次に、各学校に各部の部長を置き、部長が中心となって研究に取り組む。拠点校の各部の部長は、残り2校の部長を招集して、部長会議を開催し部の運営方針や計画を立案する。次に、それらの方針や計画に沿って専門部研修会を実施し、研究を推進する。

また、全職員が研究の全体構想や各部の取組を共通理解する場として、全体研修会を年に2回開催する。さらに、研究の中心となる組織として、推進会議を設置する。各校の校長、主幹、指導教諭、4部会の部長で構成され定期的に開催する。3校の校内組織もこの部会制と同じように設置する。さらに、「働き方改革」を考慮し、より効率よく教師の授業力の向上と授業の改善を図るために、小小連携を図り、校内研究では、同じ教科(算数科) 同じテーマで研究に取り組む。



・全体研修会は、年間に2回開催する。6月は活動計画(案)に基づいた協議など。11月は、授業参観や各部の取組の成果と課題の報告、研修会など。

・推進会議には、3校校長、主幹、指導教諭、4部長で構成されるものと、3校の主幹、指導教諭、4部長で構成されるものがある。

・推進会議、全体研修会(年2回)の計画・実施は事務局がする。

・事務局は、1年任期として、交代する。

令和元年度 鳥栖小

令和2年度 鳥栖北小

令和3年度 鳥栖中

※ 各部の拠点校校長が代表となり、当校部長が部会の運営を行う。

6 鳥栖中学校区の小中一貫教育で期待できる効果

○心豊かな“とすっ子”の育成

- ・義務教育9年間で児童生徒間の交流を図ることや、道徳教育、構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業づくりなどを通して、自他のよさを認め、伝え合うことのできる仲間づくりの育成が期待できる。
- ・義務教育9年間で個別支援計画を小中学校で共有し、小中学校合同の研修会で児童生徒の理解を深めることで、手厚く効果的な支援体制の構築が期待できる。

○たくましい“とすっ子”の育成

- ・義務教育9年間で地域・家庭との連携を図りながら、学習規律や家庭学習の確立などを通して、“自ら学ぶ”基礎となる生活習慣・学習習慣づくりが期待できる。
- ・義務教育9年間で生徒指導における情報の共有などを通して、中一ギャップの解消、不登校への継続的な対応が期待できる。
- ・義務教育9年間でキャリア教育に取り組むことを通して、将来に対して希望や夢をもち、困難に負けず、何事にも主体的に取り組むことのできる児童生徒の育成が期待できる。

○自ら学ぶ“とすっ子”の育成

- ・義務教育9年間で学習課題づくりの工夫や、「話し合う活動」を基盤においた授業づくりを通して、学習課題に対して意欲をもって取り組み、教師や友達等との対話を通して自己の学びを広げたり深めたりすることのできる児童生徒の育成が期待できる。
- ・義務教育9年間で児童生徒の発達段階を考慮し、きめ細かな学習指導を通して、児童生徒の学力の向上が期待できる。
- ・義務教育9年間で教科「日本語」教育を通して、豊かな日本語を身に付け、鳥栖市を愛し、次世代を担う鳥栖の児童生徒の育成が期待できる。